

科目名	事業創造論特講	担当者	カミイ 神井 ヒロユキ 弘之	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講では、企業（組織）の内外における新規事業の立ち上げ（本講では、イノベーションと捉えます）について、基本的な考え方の整理から、実践的な構想の取りまとめに至るまでを採り上げることとします。特に、従来と異なる視点から骨太の新規事業を構想するため、本講では、社会的課題の解決、多様なステークホルダーとの協働の視座を重視します。いかに社会的課題の解決を事業化するか、事業推進に必要なステークホルダーの協力行動をいかに実現するかなど、具体的なケース等を通じて考察し、最終的には、学修者各自が新規事業の構想を取りまとめるために必要な実践的な知見を習得することを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 学修者が、企業（組織）の内外で、新規事業を立ち上げるイノベーターとして活動するため、事業機会の発見から事業計画の策定に至るまでの一連のプロセスについて、体系的な知識を習得するとともに、社会的な課題解決を新規事業立ち上げと関連づけ、事業化を推進していくための観察・分析の技能及び態度を身に付けることを目指します。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業創造に関する理論や先進事例に関する知識を習得し、</li> <li>2. 個別のステークホルダーの行動変容と社会変化の関係、ステークホルダーの利得構造、ステークホルダーの協力行動を促す要因等の分析を行う技能を身に付け、</li> <li>3. 現状を客観的に観察し、それを関連付けて思考し、ステークホルダーの協力行動によって社会的課題の解決策を見出そうとする態度・習慣を身に付けている状態を目標とします。</li> </ol> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材等の読み込みに25時間以上manaba-folioへの提出・再提出のやりとりで20時間以上を目安とします。</p>		
学修方略（方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folioを利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本教材の十分な理解・修得は当然のこととして、参考図書や、指定教材以外の資料等をインターネット等も利用して、積極的に求める姿勢が望まれます。</li> <li>2. 前期には、基本教材を読んだ後、2つのレポート課題に沿ってレポートを作成し、事業創造に関する基礎的な知識の習得を図るとともに、イノベーターとしての活動について理解を深めることとします。</li> <li>3. 後期には、前期で習得した知識に加えて、基本教材のケーススタディを通じて、社会的課題を解決するための新規事業立ち上げに必要な分析を行う技能を身につけ、これを応用して、2つのレポート課題に沿って、具体的な新規事業構想を練ることとします。</li> </ol>		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート課題の草稿を何度か交換することで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</li> <li>2. 標準的なスケジュールとして、レポートの草稿の第一回目の提出については、遅くとも最終提出期限1か月前を目安にして下さい。</li> </ol> <p>※特に、後期レポート課題については、社会的課題の定義、ステークホルダーの協力行動を促す方策のアイデア等に関する考え方を確認・交換することが望ましいので、相当な時間的余裕を持って、初回草稿を提出することとして下さい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題1・2、後期レポート課題1・2に、それぞれ20%を配分します。
	平常評価	20%	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応（例えば、加筆、修正のコメントに対する対応）を評価します。1つのレポート課題に、5%を配分します。
履修者への要望	<p>基本教材を読むことで全てのレポート課題に対応可能ですが、参考図書等で、具体的な事業創造の事例の論理的な分析に多く触れることがより望ましいと考えます。</p> <p>後期の基本教材で取り上げるケースは、行政の立場から、ステークホルダーの協力行動を促し、社会的課題の解決を図ったものです。異なる分野での実践活動と分析枠組みを、学修者の皆さん各々の活動領域へ適用し、ユニークな事業アイデアの創出につなげるよう、自由な発想で取り組んで下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1)著者名： 忽那憲治, 長谷川博和, 高橋徳行, 五十嵐伸吾, 山田仁一郎 教材名： 『アントレプレナーシップ入門 ベンチャーの創造を学ぶ』(有斐閣ストゥディア, 2013年) ISBN978-4-641-15002-7 1,800円+税</p> <p>(2)著者名： 藤井剛 教材名： 『CSV時代のイノベーション戦略 「社会課題」から骨太な新事業を産み出す』(ファーストプレス, 2014年) ISBN978-4-904336-79-3 1,800円+税</p>
参考図書	<p>(1)クレイトン・クリステンセン,ジェフリー・ダイアー, ハル・グレガーセン『イノベーションのDNA 破壊的イノベーターの5つのスキル』(翔泳社, 2014年) ISBN978-4-7981-2471-1 2,000円+税</p> <p>(2)神野直彦, 牧里毎治『社会起業入門ー社会を変えるという仕事ー』(ミネルヴァ書房, 2012年) ISBN978-4-623-06254-6 3,200円+税</p> <p>(3)“Creating Shared Value” MR Kramer, M Porter - Harvard business review, 2011 <a href="https://ncg.org/sites/default/files/resources/HarvardBusinessReview_Creating_Shared_Value.pdf">ncg.org https://ncg.org/sites/default/files/resources/HarvardBusinessReview_Creating_Shared_Value.pdf</a></p>
履修上のポイント	<p>前期は、新規事業立ち上げに関する基礎知識を習得し、理論的な枠組みを踏まえて、具体的な事例を分析、評価できる状態を目指します。また、新規事業の立ち上げを構想する際に、戦略的な視座として、①社会的課題の解決、②ステークホルダーとの協働を意識する必要性について、理解を深めることを目指します。学修者は、既に社会人経験を通じて、様々な新規事業の事例をご存じと思いますが、そうした具体例を先行研究のフレームで整理し直すことを意識してみてください。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 (1) 第1章から第4章に基づき、具体的な新規事業の例を上げて、イノベーターが取った行動を、クリステンセンらの「イノベーターDNAモデル」によって分析せよ (基本教材(1)のp14-15参照)。 <b>留意点</b>：基本教材の内容に係る理解の正確さを評価します。なお、レポート課題の対象範囲にかかわらず、イノベーションに関する基礎知識を一通りおさえる意味で、基本教材の最終章まで目を通して下さい。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 (2) を読んだ後、以下の2つの問いに答えよ、①新規事業の戦略を構築する上で、社会的課題の解決の視座を取り入れることの意義、②ステークホルダーの協働が新規事業推進に及ぼす効果。 <b>留意点</b>：具体例を踏まえてレポート作成して下さい (具体例は、基本教材の記載例でも可)。社会的課題の解決と新規事業の関係性の理解、ステークホルダー間の協働に関する理解が記載されているかを評価します。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 神井弘之 教材名： 『食の信頼問題の実践解 フードシステムにおける協働のデザイン』(農林統計出版, 2016年) ISBN978-4-89732-355-8 2,800円+税</p> <p>近年深刻化している社会的課題の一つである「食の信頼問題」について、多様なステークホルダーの協働による解決を図った産官協働のプロジェクト2事例 (地産地消マーケットの創出、共通の事業者評価の枠組構築 (標準化)) をケースとして取り上げて分析しているものです。</p>
参考図書	<p>(1)デヴィッド・シルバースタイン他『発想を事業化するイノベーション・ツールキット 機会の特定から実現性の証明まで』(英治出版, 2015年) ISBN978-4-86276-198-9 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>後期は、行政が協働のプラットフォームを構築し、ステークホルダーの協力行動を促して、社会的課題の解決を図った事例をケースとして取り上げ、あわせて事例分析の枠組も提示することにより、学修者が、社会的課題の解決のための新規事業のアイデアを具体的に練るための技能習得を目指します。</p>
レポート課題 1	<p>自らが新規事業立ち上げによって解決したいと考える社会的課題を定義し、その解決を図る意義を説明せよ。また、社会的課題を解決する新規事業のアイデアについて簡単に述べよ。 <b>留意点</b>：社会的課題の内容が具体的であるか、新規事業により解決を図る必要性に説得力があるか、新規事業のアイデアに新規性があるかで評価します。社会的課題を解決することが要請されている事情、背景等を説明する際には、基本教材2の表4-1 (p98) と表5-3 (p162) の整理の仕方を参考にして下さい。(レポート課題1では、新規事業のアイデアには具体性を求めません。)</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2の第2章・第3章、後期レポート課題1を踏まえて、以下の4つの新規事業のポイントについて述べよ、①新規事業の概要、②新規事業におけるステークホルダーの行動変容、③ステークホルダーの利得構造を踏まえた新規事業の特徴、④新規事業の評価のものさし <b>留意点</b>：本講で習得した知識、技能、態度が新規事業の構想に反映されているか、構想に新規性・具体性があるかを評価します。なお、説明にあたり、「コールマンのマクロ・ミクロ図式 (教材 p86-88)」の適用のほか、ステークホルダーの協力行動を促す方策の類型である「公共財ジレンマの解決方策の類型 (教材 p80-83)」の適用等、基本教材2で提示された手法を用いた場合には、加点対象とします。</p>